



平成31年度 学校だより

# 緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

第165号 平成31年 4月25日発行  
発行責任者 下釜 祐保

校長室の窓から

## 不易と流行

校長 下釜 祐保



「新しい元号は令和であります」

今月1日の午前11時半過ぎ、新しい元号が発表された。5月1日に始まる、その令和の時代が数日後に迫った。平成の時代も平和でいい時代だったけれども、新しい時代には、平和を守りつつ、また違ったいろんな新しいことが始まりそうで、ワクワク感が高揚している。

佐南の新年度は、本紙右頁に紹介の新転任の先生方と新入生を迎え、校庭の桜満開の今月8日、新任式・入学式で始まった。新転任の先生方も新入生も、南高での新生活に対するワクワク感で胸いっぱいであろう。新しい出会いにこそ、新たな学びが生まれ、新たな可能性が広がるものだ。今のワクワク感に大いに期待し、大切にしたい。同時に、2年生には中心学年としての、3年生には最高学年としての新たな期待が膨らんでいることだろう。毎年、この時期にしか味わえない、年度初め特有の心地よい緊張感の中で、新時代への期待も併せて、新しい年度をスタートすることができた。

「不易と流行」という言葉がある。松尾芭蕉が『奥の細道』の旅で体得した概念といわれる。

「不易」とは世の中が変わろうとも変わらないもの、或いは変えてはならないもの、「流行」とは時代や社会の状況に応じ変わるもの、或いは変えていかなければならないものである。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」、すなわち「不変の真理なしに基礎は確立せず、変化なしに新たな進展はない」という。

本校は、昨年度創立70周年を迎え、関係者の力強い協力を得て記念式典をはじめとする多くの記念事業を実施した。一つひとつの行事や事業を進める中で、伝統校・佐南の脈々と紡がれてきた「不易」を肌で確認した。そして、いま南高に籍をおく者の使命として、伝統校ならではの「校風ここにいや増さん」ことを誓った。創立80周年、100周年へ向けた1年目として、今年度は「不易」を踏まえた上での「流行」に挑戦する年度である。新しい時代には新しい教育がなくてはならない。

南高生一人ひとり、自らの「不易」（一生を通して貫くもの、それが個性ということ）と、「流行」（それぞれの学年での挑戦、それが個性を伸ばすということ）をしっかりと確認・実行して、校歌にある「若人の理想は高し南高」を合い言葉に、意義ある南高生活の営みを進めてほしい。



## ～新任者紹介～



### ○松尾 俊彦 (教頭) 先生

この度の異動で、佐世保東翔高校から参りました。私は長崎市の出身ですが、佐世保南高校は妻の母校で、とても不思議な縁を感じています。明るく元気一杯の挨拶ができる生徒諸君、熱心で愛情あふれる先生方と共に一緒に過ごすことができ、たいへん光栄に思います。学習と部活動の両立を図り、進路実現に向かって頑張っている生徒諸君と日々奮闘している先生方を全面的にバックアップします。頑張りますので、どうぞ、よろしくお願ひします。

### ○村里 和久 (保健体育) 先生

この度、島原商業高校から赴任してきました。女子バスケットボール部の顧問を持つことになりました。伝統ある佐世保南高校のために力になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

### ○一ノ瀬 司 (音楽) 先生

この度の異動で、長崎西高校から母校である佐世保南高校に赴任して参りました。後輩である生徒のために精一杯頑張りますので、これからよろしくお願ひいたします。

### ○吉田 公子 (英語) 先生

佐世保中央高校昼間部から赴任してまいりました。グラウンドや体育館から聞こえる部活動生の元気な声や、教室で黙々と学習に取り組んでいる生徒の皆さんの姿、校内随所で響き渡る爽やかな挨拶に、南高魂を感じています。伝統ある南高の一員として心機一転、頑張っていこうと思っているので、よろしくお願ひします。

### ○齋藤 良一 (世界史) 先生

大村市出身。大村市在住です。教職16年目。担当は世界史です。初任校(佐世保東翔高校)以来の佐世保市勤務です。校内で立ち止まっていたら場所がわかっていない可能性があります。南高生のみなさん。やさしく道案内をお願いします。

### ○石見 志広 (英語) 先生

この度、五島高校から赴任してまいりました。生徒の皆さんの元気な姿勢と立派な挨拶に感動させていただきました。皆さんの進路実現に向けて微力ながら精一杯頑張らせていただきますのでよろしくお願ひします。

### ○寺田 大師 (物理) 先生

新規採用として、赴任することになりました。出身は島原市です。1年生の「情報」と2、3年生の理科(物理)を担当します。伝統校に勤務できることをとても嬉しく思っています。生徒のみなさんと成長できるようにがんばります。よろしくお願ひします。

### ○山崎 駿 (保健体育) 先生

新規採用教員として赴任することとなりました。長崎市の出身で、小学生からラグビーをしていました。ラグビー同好会の顧問をさせていただきます。高等学校に勤めるのは初めてですが、何事にも一所懸命に取り組み、生徒たちと共に成長していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

### ○原田 勇治 (国語) 先生

この度、向陽高校から参りました。佐世保南高校に来て、生徒全員が元気な挨拶をしてくれることに感動しました。私自身、生徒ともに学び、日々成長できるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。

### ○田中 友香里 (数学) 先生

この度、佐世保商業高校から参りました。生徒のみなさんと楽しい学校生活を過ごすのがとても楽しみです。その中で、私自身も共にいろいろな事を学び成長していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

### ○菊田 知江 (事務 主任) 先生

今回の異動で佐世保北高校から赴任してきました。出身は長崎市ですが、佐世保市での勤務は17年になります。伝統ある佐世保南高校の一員として、少しでも皆さんの力になればと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

### ○相川 朋子 (書道) 先生

たくさんのお思い出をもらった母校佐世保南高校をまた訪れることが出来て、たいへん嬉しく思います。書道でお役に立てる事がありましたらお声を掛けてください。どうぞよろしくお願ひします。

### ○宮原 宏美 (事務) 先生

この度、新規採用として事務現業嘱託として勤務することになりました。学校事務としましては初めての仕事となります。分からない事ばかりですが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

## ○入学式

平成31年4月8日(月)、入学式が行われました。真新しい制服姿の新生が入学を許可されて、本校の74回生となりました。大きな声で校歌を歌う姿には、本校の校訓である「自彊自律」・「和敬禮節」を胸に佐世保南高校で頑張ろうという強い意思が感じられました。



## ○新入生宿泊研修について

新1年生237名は4月15日(月)～17日(水)、佐世保青少年の天地にて新入生宿泊研修に参加しました。南高生としての自覚と規律を身につけることと、クラスや学年全体の親睦を深めることを目的に、野外炊さんやレクリエーション、集団行動、学習会などに取り組みました。3日間寝食を共にし、楽しいレクリエーションも厳しい集団行動も共に協働してやりきった経験が、ぐっとチーム74回生の心の距離を縮めてくれました。

2日目夜に行われたクラス対抗校歌コンクールでは、どのクラスも個性溢れる素晴らしい発表を披露し、甲乙付けがたく審査は難航。僅差で6組が優勝、2組が準優勝となりました。これから本格始動する南高生活も、「切磋琢磨し上昇し続ける74回生」を合い言葉に、全員で頑張っていきます！



## ○海外研修【3月25日(月)～4月1日(月)】

3月25日(月)～4月1日(月)まで、海外研修が行われました。今年度は、アメリカ合衆国カリフォルニア州テメキュラ市、マリエタ市、ロサンゼルス市を研修地として語学研修や市街地ツアー、姉妹校(ビスタ・マリエタ高校)との交流、キャンパスツアーなどを行いました。生徒は2人1組を基本とし、テメキュラ市の一般家庭にホームステイをし、生の英語に触れながらアメリカの文化や習慣を学びました。最初は上手く英語で意思疎通ができないこともあったようですが、徐々に英語にも慣れ、それぞれのホストファミリーと充実した時間を過ごしていました。最後のお別れの時には、多くの生徒が涙を流しながらホストファミリーとの別れを惜しんでいました。姉妹校であるビスタ・マリエタ高校との交流では、現地の高校生と二人組を組んで様々な授業に参加しました。ロサンゼルスツアーでは、世界有数の名門校であるUCLAに行き、大学生ガイドの方にキャンパスツアーをして頂きました。生徒達は日本の学校との規模の違いや大学のレベルの高さに驚きを隠せませんでした。



この研修を通し、英語力はもちろんのこと、コミュニケーション能力や多様な価値観など多くのものを得ることができました。今回の研修を通して身につけた力を今後の学校生活で存分に発揮してくれることと思います。

### ○1学年主任より (本山 菜美子)

入学式から一月が経ちました。期待いっぱい、しかし不安もいっぱいだった皆さんの表情から、少しずつ自信とたくましさが増えているのを感じます。宿泊研修や授業、部活動で一つひとつ日々の振る舞いを学び、実践していく中で、みなさんは南高生としての一步を確実に踏み出すことができました。

さて、今後徐々に出来ることも増えていくことと思いますが、いつまでも忘れて欲しくないことは「初心」です。先生方や先輩方から学びを得る謙虚な心、うまくいかない苦しさや悔しさ、出会って日は浅くとも声を掛け合えるクラスメイトのいるありがたさ。この「初心」を、これから困難な課題にぶつかる度に思い出して欲しいと思います。きっとうまくいきます。「初心を忘れるな。そうすれば、また何度でも新しく出かけることができる」

### ○2学年主任より (東 彦一郎)

第2学年は73回生にとってどんな1年になるでしょうか。この1年間は、学校行事や部活動において本格的に学校の中心として活躍が期待される1年です。校内だけでなく、オープンキャンパスや修学旅行など今まで体験できなかったことが体験できる機会もたくさんあります。さらには、次年度の入試についても、新しい情報が得られ、自らの進路実現のために計画的な準備をする1年となります。多くの経験を重ね、それぞれに大きな成長を得ることができる1年となることを期待します！「思いやりの心」を持ちクラスメイトと切磋琢磨する、お互いに高めあう集団になれるようがんばっていきましょう！！

### ○3学年主任より (山西 善雄) 「春には苦味を盛れ」

「薺い」と書いて「えぐい」と読む。意味を調べると、「あくが強く、のどをいらいらと刺激する味がある。えがらっぽい」とあった(「広辞苑」)。「この里芋は少しえぐい」との用法が添えられている。

フキノトウ、ツワブキ、タケノコ、ワラビなどなど、春の野菜や山菜は、渋味と苦味の入り交じった独特の味がする。その正体は灰汁(あく)という成分だ。灰汁抜きは調理の常識だが、この「えぐ味(えぐみ)」こそが春の食味であり、完熟とは異なる、未熟さの味わいがある。えぐみが抜けてしまったタケノコは、それらしくない。

人に置き換えれば灰汁は個性。「春の皿には苦味を盛れ」という諺(ことわざ)があるように、人生の「春」の時期、少々それが強くてもいいではないか。

### ○進路指導部より「平成30年度入試結果について」

平成31年3月に卒業した生徒の合格状況(延べ人数)は、国公立大学94名、私立大学189名、準大学3名、短期大学13名、専門学校40名、就職12名で、主な合格先は、九州大学や長崎大学、長崎県立大学などの九州の国公立大学、早稲田大学や立命館大学、西南学院大学、福岡大学など全国の私立大学などです(詳細は本校ホームページに掲載しています)。

今春卒業した生徒たちも、これまでの先輩たち同様、最後まで粘り強く受験に臨み、多くの生徒がそれぞれの希望進路を実現していきました。私たちは受験や受験勉強を通じて、学力だけでなく人間的な成長も促したいと考えながら日々指導しています。今年の卒業生もそれをしっかりと体現してくれたと感じています。

今年度の入試結果を分析し、その成果や反省を踏まえ、在校生の進路指導と進路実現のためのサポートに努めていきたいと思っています。

### ○5月行事予定

- 5月 7日(火) 育友会総会振休
- 11日(土) 育友会総会・学年育友会
- 13日(月)～15日(水) 第1学期中間考査(1,2年は14,15日の2日間)
- 16日(木) 生徒総会
- 20日(月)～24日(金) 高総体強化週間
- 27日(月) 高総体振休

